

「国際交流拠点・品川」における高輪築堤等の価値・あり方に関する有識者検討会議（第10回）

開催記録

I 開催概要

日 時： 2024（令和6）年3月12日（火曜日）14時30分～16時30分
場 所： JR 東日本 現地会議室
出席者： 以下の通り

表 出・欠席者一覧

有識者	・松浦 晃一郎氏（第8代ユネスコ事務局長） 座長 ・木曾 功 氏（元ユネスコ日本政府代表部特命全権大使） 副座長 【欠席】稲葉 信子 氏（国際機関 ICCROM 事務局長特別アドバイザー） ・中井 検裕 氏（東京工業大学 名誉教授） ・西村 幸夫 氏（國學院大學 観光まちづくり学部 学部長） ・本保 芳明 氏（国連世界観光機関（UNWTO）駐日事務所 代表）
有識者 オブザーバー	【欠席】小野田 滋 氏（公益財団法人鉄道総合技術研究所 アドバイザー） 【欠席】老川 慶喜 氏（立教大学名誉教授） 【欠席】古関 潤一 氏（東京大学名誉教授・ライト工業株式会社 R&D センターテクニカルオフィサー） ・谷川 章雄 氏（早稲田大学 人間科学学術院 教授）
オブザーバー	・文化庁文化財第二課 史跡部門 ・港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課 ・港区まちづくり支援部 開発指導課 ・東京都 建設局 道路建設部 鉄道関連事業課 ・公益財団法人東日本鉄道文化財団 鉄道博物館 学芸部
事業者	・独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 都心業務部 ・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模開発部門 ・東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部 まちづくり部門 ・東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター ・京浜急行電鉄株式会社 生活事業創造本部 品川開発推進部 ・京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 建設部
事務局	・京浜急行電鉄株式会社 ・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模開発部門 ・東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部 まちづくり部門
サポート	パシフィックコンサルタンツ株式会社

当日配付資料：次第

- 資料 1 [第 9 回（12/25）有識者検討会議議事録案]
- 資料 2-1 [高輪築堤の保存・価値・継承のあり方を十分に踏まえたまちづくりについて]
- 資料 2-2 [「高輪築堤跡保存活用計画書」との関係性]
- 資料 3 [「高輪築堤」継承の取り組みについて]
- 資料 4 [品川駅周辺エリア全体で目指すまちづくり]
- 参考資料 1 [国家戦略特別区域の認定状況]
- 参考資料 2 [史跡の本質的価値（保存活用計画書抜粋）]
- 参考資料 3 [高輪築堤の保存の方針について]
- 参考資料 4 [JR 東日本プレスリリース（2024 年 3 月 5 日）]

II 議事要旨

1 開会

- 第 10 回「国際交流拠点・品川」における高輪築堤等の価値・あり方に関する有識者検討会議の全体会を開会する。（事務局 JR）

2 第 9 回（12/25）有識者検討会議 議事録確認

- 修正指摘事項があれば本日会議終了後までに指摘してもらいたい。（座長）
← 指摘なし。（有識者一同）

3 高輪築堤の保存・価値・継承のあり方を十分に踏まえたまちづくりについて

- 資料 2 について説明する。（事務局 JR）

〔説明概要〕前回会議までの意見を取りまとめ、保存活用計画書、高輪築堤調査・保存等検討委員会における保存の方針との照合を行った。史跡の本質的価値との照合において本会議でまだ議論していない項目を抽出したので、今回及び今後の会議でご意見を頂きたい。

- 高輪築堤は、旧新橋停車場の史跡指定に追加指定となり、本質的価値を再検討した。水運と陸運の結節点である東海道、車町の河岸の機能を維持するために形成された第 7 橋梁、その南北の仕切堤の存在など、地域史との関連が大きいことも発掘調査の成果で分かった。保存活用計画の計画対象区域は史跡指定地だけではなく、周辺地域を含めて定めている。（谷川氏）
- 指定地だけでなく幅広く価値を捉えていることが、高輪築堤の保存活用計画の中核となる。現在、保存活用計画に基づいて整備基本計画を作成途中であり、第 7 橋梁跡や公園部の保存方法や展示方法を検討している。今後何かの機会で紹介したい。（中井氏）
- 周辺とは明確な境界線を引いているのか。（座長）
← 品川開発プロジェクトの範囲が計画対象の範囲である。（谷川氏）

- 長期間にわたって整備が進み周辺状況も変わるため、本質的価値は非常に重要である。整備するときに何が大事か常に依拠すべき原点である。本会議の議論と保存活用計画がしっかりと連動していくことが大切である。（西村氏）
- 重要文化財だと限定的になるが、保存活用計画が広い範囲を捉えていることは良い。明治の近代化の第一歩ということが主となっており、ここだけの範囲という限定的なものではない。（副座長）
- 文化庁の見解を聞きたい。高輪築堤は史跡指定しているが、重要文化財の指定として価値を高める解釈がある中で、移築についてどう評価するか。（副座長）
 - ← 難しい問題だが、重要文化財と史跡は根本的には変わらない。文化財が同じ場所にある方が良いが、それが難しければ移築となる。高輪築堤は土の中から取り出して同じように移築はできない。したがって現地にある方が良いという考えである。ただし信号機土台部はどうしても現地に残せないため、移築という手法を取った。（文化庁）
 - 移築自体で価値がなくなることではないと考えて良いか。（副座長）
 - ← 残せないなら近い場所に移すということで、同じ場所にあるよりは下がるが、価値はある。（文化庁）
- 世界遺産の場合は分かりやすいが、遺構本体と周辺ということで、史跡に指定されたのは周辺も含むのか。（座長）
 - ← 遺構本体のみである。史跡は土地を指定する。周辺も指定する史跡もあるが、今回は開発の建物計画が先にあるので遺構本体のみとしている。（文化庁）
- 移築した信号機土台部は何らかの形で保護対象となるのか。保存のための措置や仕組みはあるのか。（座長）
 - ← そういう仕組みはない。史跡にも指定されない。（文化庁）
 - ← 整備基本計画でどういう形で残すのか検討している途中である。（中井氏）
- 信号機土台部は重要文化財となれば保存できると思うが、その下位的な位置付け、例えば都や区の文化財指定などができないのか。せっかく移築保存するのだから文化財として残すことができないのか。（座長）
 - 本質的な問題であり、現行制度の課題であると思う。史跡指定できる範囲が限られている。そこにあるものが重要なのに、法的な仕組みが整っていない。信号機土台部は重要文化財に指定すべきである。現状制度でやむを得ないという見解もわかるが、将来撤去される可能性などが残るのはおかしい。価値という意味で、この部分を考えるべきである。（副座長）
 - 東京都の文化財担当の意見を聞きたい。現状、都道府県の文化財が増えているが、都の文化財にできないのか。問題提起としたい（座長）
 - ← 本日は東京都の文化財担当者は欠席である。（事務局 JR）
- 移築の概念が重要である。本来高輪築堤は土・石・木であり海側には群杭がある。今回信号機は表面の石だけを移築するので、高輪築堤自体の移築とは呼べない考える。（谷川氏）
- 高輪築堤調査・保存等検討委員会において移築の議論をした際、どうしても現地に残せないなら移築もやむを得ないという結論とした。ただし築堤の断面を見せる工夫をして

移築を考えるようにお願いした。移築により内部構造を見せることができるのは一つのやり方である。（谷川氏）

- 港区はどう考えるか。（座長）

← 港区としてのコメントはない。（港区）

- まとめが難しいが、良い資料や議論があったのでこれらを踏まえて対応を考えることが重要と考える。（座長）

4 「高輪築堤」継承の取り組みについて

- 資料 3 について説明する。（事務局 JR）

〔説明概要〕 1～4 街区で考える継承の取り組みをまとめた。整備については現在整備基本計画の委員会で意見を頂きながら、公園部、第 7 橋梁部、移築部、連続性を表現するランドスケープという 4 つの観点で検討を進めている。ランドスケープの具体として高輪築堤の石を用いた景観形成、鉄道らしい風景としてレールの設置、AR の活用や工事中の仮囲いを利用した歴史紹介などを考えている。

- 4 街区のランドスケープという箇所は 2024 年度末完成という急な話だが、どういう手順で進めるのか。（座長）

← 整備完了は 2025 年 3 月を想定する。現在建物躯体は概ね完成して内装工事に移っている。当該箇所は外構として材料手配などを進めている。（事務局 JR）

- 4 街区のランドスケープと呼ばれる部分は前回の意見を反映していただいております、基本的にこれで良いと思う、空間が細長く、線路が建物の中に入る箇所もあるので誤解されないようにすべきである。（西村氏）

- 本来はもっと早く議論できていればよかったが、建物の中についても工夫できるなら床面のデザインなどは考えられるだろう。（西村氏）

- 4 街区と 3 街区の間の道路の横断部で、築堤が北側に繋がるデザインができると良い。ストーリーを連続させてもらいたい。これは 1 街区と 2 街区の間も同じである。敷地の外の部分との調整や工夫をしてもらいたい。（西村氏）

← 整備基本計画を踏まえて周辺をどう整備していけるかを、港区とも協議して進めていきたい。（UR）

← 港区としてもこのまちづくりが街区単位で行われるのではなく、エリア全体で進められることを目指しており、高輪築堤も同じである。ただし道路で何ができるかは簡単ではなく、道路内なのか、敷地内なのかを含め UR と協議して考えていきたい。（港区）

← 車道部分は警察協議が絡むため難しいと思うが、UR も港区も検討してもらえるとことなので、検討していただきたい。（中井氏）

← 3 街区や 2 街区への接続はデッキのプロムナードとなるので、そちらの方が工夫しやすいのではないかと。築堤は現状の地面より下にあるものだが、レベル感を上手くそろえながら、なるべく連続性を出していけるデザインに出来ると良い。（中井氏）

- 仮囲いが 2031 年まで残るということで、仮囲いを使った表現や、イベントでのプロジェクトマップに使用するなど、上手く使っていけると良い。（中井氏）

- 最終的には1街区から品川駅まで歩けるようになる。人が多く流れて界限性を持った地域になることが重要である。人流を考えたデザインが、観光や人と人との接点という意味で重要。高輪築堤は人の流れの中で、歴史との接点という意味で大きな意味と価値を持ってくる。地域史という観点も取り込んでもらいたい。（本保氏）
- 発掘当時、コロナ禍で多くの人に見てもらえなかった。ARの中に発掘現場を体験できるような映像にしてもらえると大変ありがたい。（谷川氏）
- 最近の仮囲いは、足を止めて見たいと思う面白いものが多いので、そうしてもらいたい。テーマは鉄道が中心になると思うが、長い距離となるので品川・高輪の江戸時代からの歴史、まちの歴史を語るものになると良い。（副座長）
- 4街区のまちびらきの3年後に史跡区域の完成となるが、そんなに時間がかかるのか。資料のパースの状態が出来上がるのは2031年なのか。（座長）
 - ← 4街区の建物完成後に遺構を掘り起こしてから周辺整備となるため、その期間が必要である。（事務局 JR）
 - ← 2025年3月に4街区側の完成と共に人が通れるようになるが、国道側は仮囲いの状態が5～6年続き、国道側の開発が完了すれば完成形となる。（JR）
- 資料のパースは、通りの両側を表示させるように示すこと。（座長）

5 まちづくりの考え方

- 資料4について説明する。（事務局 JR）

〔説明概要〕JR 東日本は品川駅周辺エリア全体で多様なパートナーとの共創により、100年先の心豊かな暮らしに向けて新たな価値が創出され続けるまちづくりを目指しており、国家戦略特区として国際ビジネス拠点を集積させ、国際イノベーション拠点形成にチャレンジするまちとして位置付けている。具体的には品川開発プロジェクトのまち全体で医療・知・エネルギーを3つのチャレンジの柱とし、既に1～4街区の建物でも整備を進めている。これに文化との関係として、文化創造棟の展開、高輪築堤による継承を考えている。
- 文化の発信は多義的である。高輪築堤は過去の話になるかもしれないが、過去から未来に繋がる文化の発信として、ぶつ切りにならないように組み立てることが重要だと思う。（谷川氏）
- 資料4はカタカナが多くわかりにくいですが、プレスリリースの資料ならよく理解できる。但しプレスリリースに歴史の内容が全く触れられていないのは寂しい。これから先を考えていく上では歴史についても踏まえていく必要があると考える。（本保氏）
- 品川ではTAKANAWA GATEWAY CITY以外にも多くのプロジェクトが動いており、MICE施設など開発同士で重複する機能もある。全体をどうコーディネートするかという意味で、企業、事業者を中心にコンソーシアムの試みを考え始めている所である。TAKANAWA GATEWAY CITYが一番早く進む事業なので、協力をお願いしたい。（中井氏）
- エリアマネジメントの構想はあるのか。（本保氏）
 - ← 各開発地でエリアマネジメントの法人設立が考えられている。品川全体での司令塔として、全体の地区連合体、企業体、コンソーシアムを作るかなどの議論を進めているが、まずは地区ごとにエリアマネジメントを進める。（中井氏）

- 本会議は築堤の価値・あり方からスタートしたが、細長い TAKANAWA GATEWAY CITY のコンセプト、空間にもそれが表れているべきだと思う。南北に細長いエリアは線路そのものという印象を持つし、少し工夫すれば大きな意味を持たせられる。（西村氏）
- 5、6 街区やその南側は街区がもっと整形になるようなので、建物形状の自由度が高いのではないかと。南北に貫く築堤をどういう形でデザインできるか、全く無視するデザインもあり得るが、築堤を基盤にデザインする工夫ができれば上手くいく大きな判断の分かれ目となる。東西に環状4号線も整備されるので、これを含めて高輪築堤をどうデザインするか、品川駅に繋がっていければ、空間的なメッセージとして発信できて良い。（西村氏）
- 旧新橋駅の汐留の開発は、駅が復元してあっても線路を分断する形で大きいビルが作られていて、全く連続性を感じない。駅がかわいそうである。清算事業団が関係するので土地を売らなければならなかった条件は理解するが、今回はそういうところではない。新橋で実現できなかったことがここで実現できると良い。変な建物を建てると汐留の二の舞となる。物語のスタートに築堤があったことが今の開発に至らせているのだから、しっかりと尊重し、その尊重がどういうデザインか、デザイナーとしっかり検討してもらいたい。道や線路を作れば良いということが答えではない。是非工夫を凝らしてチャレンジしてもらいたい。（西村氏）
- まちづくり全体の時間軸について、特に5・6街区について聞きたい。（副座長）
← 5・6街区用地は、品川駅部、環状4号線、京急線改良の工事ヤードとして2027年まで使用し、その後に建物を建てていく。（JR）
- コンセプトには大賛成である。国家戦略特区だから、教育・学術・文化・エネルギーなど重要な機能を集積して、現在の日本が抱える課題を解決する意図が感じられる。単なる JR 東日本の開発事業ではなく、非常に大きな影響力を持つ。オフィスビルを作るだけでは納得できない。文化財保護も広域で考えるべきだし、周囲の開発事業も社会の利益をどう考えるかが重要である。（副座長）
- 史跡区域の現地保存をするために掛かるコストはどのくらいか。それを企業としてどう考えるか。（副座長）
← 第7橋梁部を現地に残すにあたり、3街区棟を海側に動かす設計及び計画変更等を行ったため、約500億円増加した。負担が大きいけど、築堤は我々の先人が作った歴史であり、補助金などの支援も頂くなど様々な理解と支援の中で、決断して進めてきた。まちづくりと文化財保護の両立を進めたく、その中でエリアの価値を更に高めていきたい。（JR）
- 「150年前の鉄道開業というイノベーション」という部分をしっかり強調してってもらいたい。（座長）
- 産官学で、官の協力を得ないといけない。港区だけではなく、都、国に応援や協力をしっかり行ってもらいたい。（座長）
- 「TAKANAWA GATEWAY CITY」と「国際交流拠点・品川」が、同じ場所を指すのか使い分けをしているのかわかりにくいので、用語を整理してもらいたい。話を聞いていると品川はまちづくり全体で、そのうちの細長い部分が「TAKANAWA GATEWAY CITY」と認識できるが、プレスリリースは「TAKANAWA GATEWAY CITY」のことしか記載がなく、全体のことに

触れられていない。「国際交流拠点・品川」がどこまでを指すのか明確にしてもらいたい。（座長）

← 次回会議で、保存活用計画範囲と共にエリアについて説明する。（JR）

← 「国際交流拠点・品川」は広い概念であり、JR 東日本の事業のみではない。「国際交流拠点・品川」を構築する複数のプロジェクトの一つを「TAKANAWA GATEWAY CITY」と呼ぶ。（JR）

→ 参考資料 1 の P. 2 の図の赤枠範囲が「国際交流拠点・品川」か。（座長）

← 赤枠範囲は都市再生緊急整備地域の範囲である。（JR）

- 「国際交流拠点・品川」という範囲は少し漠然としていても良いが、「TAKANAWA GATEWAY CITY」と国際交流拠点・品川が識別されるように用語を使ってもらいたい。（座長）

6 その他

- 次回の議題を説明してもらいたい。（座長）

← 5・6 街区に関してさらに詳しい内容を提示して、今後の進め方について議論いただけるようにしたい。また 4 街区の工事が進んでいるので、現場見学実施を検討したい。見学のスケジュールは現場と調整して連絡する。（JR）

- 今後のこの会議の予定を説明してもらいたい。（座長）

← 年内で 2～3 回の議論をお願いしたいと考えている。（JR）

- その他意見や追加議題がなければ、本日は終了する。（座長）

7 閉会

- 次回第 11 回は 6 月 10 日を予定し、詳細は後日連絡する。（事務局 JR）
- 本日は終了する。（事務局 JR）

要旨以上

III 記録

1 開会

- [事務局 JR] ただいまより、第10回「国際交流拠点・品川」における高輪築堤等の価値・あり方に関する有識者検討会議を開会する。
- [事務局 JR] 配付資料の確認を行う。資料の欠損があればその申し出いただきたい。
- [事務局 JR] 本日は稲葉氏、オブザーバーの小野田氏、老川氏、古関氏が欠席となる。
- [事務局 JR] 本日の次第を説明する。
- [事務局 JR] ここからは座長に進行をお願いする。

2 第9回（12/25）有識者検討会議 議事録確認

- [座長] 毎回しっかりと資料を作成頂き、感謝する。事前に修正の指摘をしていると思うが、最終として本日会議終了までにご指摘いただきたい。

3 高輪築堤の保存・価値・継承のあり方を十分に踏まえたまちづくりについて

- [事務局 JR] 資料2について説明する。資料2-1と資料2-2となる。前回まで頂戴した意見を取りまとめて掲載するとともに、オブザーバーの谷川氏より意見を頂いた保存活用計画の本質的価値とこれまでの検討会議においていただいた価値の比較を行った。保存の方針等は、参考資料に用意している。本質的価値との照合に対して本会議でまだ議論していない項目を整理しており、今回を含めて今後ご意見を頂けるとありがたい。
- [座長] 皆さまのご意見を伺いたいですが、まずは谷川氏よりご意見を頂く。
- [谷川氏] 元々旧新橋停車場の史跡指定に高輪築堤が追加指定となり、本質的価値を再検討した。その中で、当初は意識されていなかったが、水運と陸運の結節点に建設された築堤の橋梁ということで第7橋梁に触れているが、東海道との間をつなぐ南北の仕切堤があったことや、東海道側に車町の河岸の機能を維持するために第7橋梁を通舟できるように作ったという経緯がある。つまり鉄道史だけではなく、地域史における意味もあるということである。その他の橋もそれなりの理由があり、地域史との関連が大きいと考える。発掘調査の成果をみていくなかでこういったものが出てきた。保存活用計画については、指定地だけが計画対象になっていないという点が重要で、指定地の周辺の地域を含めて計画対象区域を定めていることも特徴である。
- [中井氏] 指定地だけではなく幅広に捉えて、価値も含めていることが、この保存活用計画の中心的内容となる。現在、保存活用計画に基づいて整備基本計画を作成している途中である。その中で第7橋梁の跡や公園部等についてどういう形での展示が望ましいか、保存技術はどういう

方法が良いか、といったことを検討している。また何かの機会で紹介したい。

- [座長] 周辺まで含めていることは良いが、明確な境界線を引いているのか。
- [谷川氏] 品川開発プロジェクトの範囲が計画対象の範囲である。
- [西村氏] 史跡の本質的価値は世界遺産でいうと OUV (Outstanding Universal Value) にあたるので、非常に重要である。今後、長期間にわたって整備が進むなかで周辺状況も変わる。整備するときに何が大事か常に戻って考える依拠すべき一番基本のコメントだと思う。本会議の議論と、保存活用計画がしっかりと連動してくことが大切だと思う。資料2-2の整理はありがたい。
- [副座長] 保存活用計画が広い範囲を捉えていることは良い。重要文化財だと限定的になるが、歴史的な価値が根底にあり、明治の近代化の第一歩という事が主となっている。それはここだという限定的ものではなく、広い範囲のもので、それを史跡として後世に残すための整理になっている。文化庁の見解を聞きたいが、高輪築堤を重要文化財として整理しなかったということについて、旧新橋停車場跡を史跡として指定したということが影響していると思うが、史跡の場合、そこにないと価値が失われることになる。一方で、重要文化財ということであれば、ものがきちんと残っていれば、それがどこにあっても価値があるという解釈になる。移築ということについて、どういう評価にしているのか。本当に価値はないということなのか。それとも次善の策として、どうしてもないときは移築をしても良いという整理なのか、考えを聞きたい。
- [文化庁] 難しい問題だが、重要文化財の建造物と史跡は、根本的には変わらないと考えている。建物は基礎の上に建っているので、移築は容易である。建物も同じ場所にある方が良いが、それが難しいということであれば移築する。ただ、高輪築堤の場合は、土の中から出てきた。土の中から取り出して同じように移築することは、ほぼできないと考えている。その観点で、現地にある方が良いという考えである。ただし、信号機の部分など、どうしても難しい場合は移築という手法を取っている。
- [副座長] 信号機の部分は現地保存がどうしても難しいということで移築としたということと理解するが、信号機は移築したことによって価値がなくなるということではない、と考えて良いか。
- [文化庁] 価値があるかないか、ではなく、同じ場所に残せないならば近い場所に移すということで、同じ場所にあるよりは下がるが、価値はあるということである。
- [座長] 世界遺産との比較が分かりやすいが、本体プラス周辺ということで、史跡に指定されたのは周辺も含んでいるのか。
- [文化庁] ほぼ本体だけである。史跡は土地を指定する。ほかの史跡では周辺も指定することもあるが、今回は建物の計画が先にあるので、きわめて限られた範囲として、遺構の部分のみとしている。

- [事務局 JR] 史跡に指定されている部分は第 7 橋梁部を中心とした 80m の区間と公園部と呼ばれる 40m の区間である。移築部は 4 街区から出てきた信号機土台部ということで、模型でも示したが、少し場所を動かして 30m の区間を移築再現する。この区間については史跡の指定対象外である。
- [座長] 移築した信号機は、何らかの形で保護対象となるのか。保存していくための措置はどうなっているのか。そういうシステムがあるのか。
- [文化庁] そういうシステムはない。史跡にも指定されていない。
- [中井氏] 整備基本計画でどういう形で残していくかを検討している途中である。
- [座長] 信号機土台部が重要文化財となれば、どこへ移築しても重要文化財として保護され保存できると思うが、重要文化財まではいかないということで、その下位の位置付けみたいなものはないのか。例えば国の文化財の下に県の文化財があるような形で、地方公共団体での位置付けをするなどができないのか。せっかく信号機を移築保存するのだから、文化財として残していくことができれば良いと考える。
- [副座長] 本質的な問題である。制度の課題であると思う。史跡として指定できる範囲が限られている。そこにあるものが重要であるのに、法的な仕組みが整っていない。信号機土台部は重要文化財でも指定してしかるべきだと思う。現状の制度だとやむを得ないという文化庁の意見もわかるが、将来、撤去されるなどの可能性が残されると、何かおかしい。価値という意味ではそういう部分を考えるべきである。
- [座長] 東京都の文化財担当の意見を聞きたい。今、都道府県の文化財が増えている。国の文化財にするのが難しいのであれば、都の文化財にできないのか。問題提起としたい。
- [事務局 JR] 本日は東京都の文化財担当者は欠席である。
- [谷川氏] 移築の概念が重要である。高輪築堤は土と石と木でできていて、今回の信号機土台部は石だけを移築する。本来、高輪築堤はほとんど土であり、海側に群杭がある。今回は石のみの移築であり、高輪築堤自体の移築とは呼べないと思う。高輪築堤調査・保存等検討委員会で移築の議論をしたときに、どうしても現地に残せないなら移築もやむを得ないということとした。ただ、断面が見えるように工夫をして移築を考えてもらいたいという願いをした。現地保存では断面が見られる状況になかったが、移築することで内部の構造などを見せることができるというのも一つのやり方かと思う。
- [座長] その点は考えていなかった。港区はどう考えるか。
- [港区] 頂いたご意見に対して、港区としてのコメントはない。
- [座長] まとめるのが難しいが、資料としても議論としても良いものが出来上がったと思うので、これらを踏まえて対応を考えることが重要と考える。
- [座長] 他になれば次の議題に移る。

4 「高輪築堤」継承の取り組みについて

- [事務局 JR] 資料3について説明する。1～4街区で考えている継承の取り組みをまとめた資料になる。整備基本計画の委員会で意見を頂きながら内容を検討している。史跡指定範囲の第7橋梁部と公園部については現地で復元をし、当時の姿が眺められるように検討を進めている。信号機土台部については、断面も見える形で移築できないか検討を進めている。新東海道については、高輪築堤の記憶・連続性を表現する空間づくりという4つの取り組みの検討を進めている。ランドスケープの部分について、前回から変更となった点を説明する。レールの埋込み部分については、ここには何もない方が良いのではないかと、というご意見を頂いたので、ベンチや植栽を取り止め、レールをしっかりと通す計画に変更した。石の積み方については、海側の石積み、山側の石積みを表現し、高輪築堤の元々の積み方に合わせるように計画を変更した。AR活用については、かつてここに機関車が走っていたことが想像できるように、例えばスマートフォンをかざすとレールの上に機関車が走っている様子が見えたり、現地で発掘されたときの状況をバーチャル体験できたりする取組みも検討している。また、工事中の仮囲いを活用した歴史やまちづくりの発信も検討している。
- [座長] 4街区のランドスケープと呼ぶ箇所は、2024年度末に完成ということで急な話である。どういう手順で進めるのか。
- [事務局 JR] 整備完了の時期は2025年3月を想定している。建物は概ね完成して内装の工事に移ってきている。外構の部分としては現在、石や植栽等の材料の手配を含めて工事を進めている。2025年3月のまちびらきのときに一緒にオープンを予定している。
- [西村氏] 前回の意見を反映していただいております。基本的にはこれで良いと思う。4街区は細長く、線路が建物の中に入る部分もあるので誤解されないようにしておくべきである。本来もっと早く議論できていれば良かったが、建物の中についても工夫できるなら、床面のデザインなどは考えられるだろうと思う。4街区と3街区の間の道路を横断する部分には、道路の仕上げ等で何か工夫ができるのかどうか。築堤があることを示す工夫、北側に繋がっていくためのデザインなどができると良い。史跡公園だと、舗装を変えたりする表現がある。ここが区道だとすると、舗装の表現など上手い工夫をして、協調していくとストーリーとして連続していくようにしてもらいたい。1街区と2街区の間も同じである。敷地の中で努力をしてくれるのもありがたいが、港区と調整して敷地の外の部分の工夫もしてもらいたい。少なくとも史跡は点在しているけれども様々な努力によって人を北に導くインセンティブになる。
- [UR] 整備基本計画を踏まえて周辺をどう整備していけるか、港区とも協議して検討を進めていきたい。
- [港区] 私どもとしてもこの地区のまちづくりが街区単位で行われるものではなく、歩行者ネットワーク含め全体で進められることを目指している。

高輪築堤も同じである。ただし具体的に道路部で何ができるか、簡単なことではないと思っている。ご意見を頂いたので、道路部でできることが何かあるか、道路内なのか、敷地内なのかを含めURとも協議して考えていきたい。

[中井氏] 車道部分は私は否定的というか難しいと思う。警察協議が相当大変だろうが、検討してもらえるとということだったので、ご検討いただきたい。3街区や2街区をつなぐデッキはプロムナードになるので、そちらの方が築堤のラインが工夫しやすいと思う。築堤は本来、地面より下にあるものだが、レベル感を上手くそろえながらなるべく連続性を出していけるデザインにできると良いと思う。また、仮囲いが2031年まで残るということなので、仮囲いを使って何かを表現したり、イベントでのプロジェクションマッピングに使用したりするなど、上手く活用できると良い。

[本保氏] 最終的な出来上がりとして、1街区から品川駅まで歩けるようになると思うが、人が多く流れて、界限性を持った地域になっていくことが、地域が活力をもっていくためにも重要である。人流をよく考えたデザインが、観光や人との接点という意味で重要である。高輪築堤は人の流れの中で、歴史との接点という意味で大きな意味と価値を持ってくる。歴史との接点という意味では高輪築堤あるいは線路だけでなく、谷川氏が指摘されたように地域史との関係もあって出来上がっている。地域史という観点も取り込んで、現代・近代・歴史が重なって実感されていくような地域づくりを念頭に置いてもらいたい。仮囲いはそれほど綺麗なものではないと思うが、錦絵を活用した展示などが考えられているが、錦絵があるということは歴史を勉強するいい機会になる。イベントも大事だが、子供の教育の場として活用するなどを考えてもらいたい。2031年までの長い間、「ちょっと嫌な仮囲いがある」というよりも、良い研鑽の場として活用してもらいたい。

[谷川氏] ARの中に発掘現場に立っているかのような体験ができるように取り組んでもらえたらと思う。発掘当時、コロナで多くの人に見てもらえなかった。発掘現場が今のまちにつながったということが体感できるようなであるとよい。通常、開発があると、そこにどのような遺跡があったかなどは、訪れた人にはわからない。それでは過去が消しゴムで消されていくような印象を持つ。AR等で発掘現場に立っているかのような体験ができる映像にしてもらえると大変ありがたい。

[副座長] 仮囲いは最近面白いものが多い。足を止めて見たいと思うものが増えている。そういうものにしてもらいたい。長い仮囲いなので、品川・高輪の江戸時代からのまちの歴史を語るようなものになると良い。テーマは鉄道が中心になると思うが、そういう工夫をしてもらいたい。

[座長] 4街区のまちびらきの3年後に史跡区域が公開となるが、それほど時間がかかるのか。

[事務局 JR] 現在周辺において建物工事をしているので、遺構を地中に埋めて安定した状態にしている。建物が完成してからもう一度掘り起こして周辺整備をするので、そのくらいの期間が必要である。

- [座長] 資料のパースのような風景が出来上がるのは2031年なのか。
- [事務局 JR] 駅側建物は2025年3月、国道側建物は2031年頃となる。通りが歩けるようになるのは、2025年を予定する。
- [JR] 資料の右下のパースのような状態になるのが2025年3月であり、駅側のビルも完成して人が通れるようになる。その状態が2025～2031年までの5～6年ほど続き、国道側の工事が完了すれば完成形となる。
- [座長] パースは両側を比較したもので説明してもらいたい。
- [JR] まち全体の整備に長い期間かかるので、その状況については次回整理して提示したい。
- [座長] 工事を支障したり、リスクは避けたりするべきだが、なるべく早く色々な場所を人が通り、見るができるように進めてもらいたい。
- [座長] 他になければ次の議題に移る。

5 まちづくりの考え方

- [事務局 JR] 資料4について説明する。JR 東日本は品川駅周辺エリア全体で「100年先の心豊かなくらし」に向けて、多様なパートナーとの共創により新たな価値が創出され続けるまちづくりで品川から日本を元気にしていくことを目指している。品川駅周辺エリアは品川駅を中心に国内外の玄関口となる拠点性を持っている。品川開発プロジェクトは国家戦略特別区域計画の認定を受け、国際ビジネス交流拠点を整備する、公共・公益的なまちづくりを推進する場所だと考えている。そのような中で、私どもは「100年先の心豊かなくらし」のための実験場として、まち全体で日本の社会課題解決に取り組む国際イノベーション拠点を形成し、日本の持続可能な成長と発展にチャレンジしていきたい。具体的には、アカデミアや企業をはじめとする共創パートナーとの連携強化により、国際標準に繋がるイノベーションを創出することで元気な日本づくりに貢献することや、規制改革を伴う産官学一体での科学技術・イノベーションを推進し、日本の国際競争力強化に貢献していきたい。品川開発プロジェクトのまち全体でチャレンジしていく取り組みとしては、大きく、医療・知・エネルギーを3本柱として、既に1～4街区でも取り組みを進めている。この取り組みと、文化との関係性として、高輪築堤や文化創造棟を通じて、高輪築堤の価値と日本で初めて鉄道が走ったイノベーションの地としての記憶を次世代に継承したいと考えている。
- [谷川氏] 文化の発信は多義的であり、高輪築堤は過去の話になるかもしれないが、過去から現在、そして未来に繋がっていく文化の発信として、ぶつ切りにならないように組み立てることが、難しいけれども重要だと思う。
- [本保氏] 明るい話で良いが、カタカナが多くてよくわかりにくい。その間を埋めるのがプレスリリースの資料であり、これを読むと様々なことが理解できる。他方でここまで歴史が関係しているのに、プレスリリース

に歴史の内容が全く触れられていないのは寂しい。これから先を考えていく上では歴史についても踏まえていく必要があると考える。

[中井氏]

品川ではTAKANAWA GATEWAY CITYだけではなく、ほかにも多くのプロジェクトが動いている。施設として重複するものもある。例えばMICE施設などである。品川駅西口にもかなり大きな施設ができる。ソフト面で全体をどうコーディネートするかという意味で、企業あるいは事業者を中心に、品川で活動するコンソーシアムの試みを考え始めているところである。TAKANAWA GATEWAY CITYは時間軸的に一番早く進んでいるプロジェクトなので、協力をお願いしたい。

[本保氏]

エリアマネジメントに向けた構想はあるのか。

[中井氏]

TAKANAWA GATEWAY CITYについては、エリアマネジメントの法人が既にできている。ほかの地区でも同じようなことを考えている。全体をどうするか、司令塔を作るのかどうか含めて議論を進めているところである。先行きは不透明だが、まずは地区ごとにエリアマネジメントを進めていく。全体の連合体、企業体、コンソーシアムを作るかどうか、動き始めたところである。

[西村氏]

この検討会議は高輪築堤等の価値・あり方からスタートした検討会議なので高輪築堤に引き付けて意見をすると、細長いTAKANAWA GATEWAY CITYのエリアの基本的なコンセプトに、築堤がここにあったことが空間にも感じられるようなものがあるべきだと思う。幸いにも1～4街区は南北に細長い敷地ということがほぼ線路のような印象を持つ。少し工夫すれば連続性を感じられ、大きな意味を持たせられる。5・6街区や南側は、街区がもっと整形になるようなので、建物の建て方の自由度が高いのではないか。南北に貫く築堤をどういう形で具体的なデザインのソースにできるか。全く無視されてもそれなりのデザインはできるが、そこを基盤にデザインしていく工夫ができれば上手くいく大きな分かれ目となる。東西に環状4号線が通るので、それも含めて高輪築堤がどのようなデザインの展開になり得るのか非常に難しいところだ。これが新しい品川駅に繋がっていければ、高輪築堤の想いのようなものを空間的にメッセージとして発信できると思う。旧新橋駅の汐留の開発は清算事業団なのでJR東日本とは異なるが、駅は復元されているものの線路を分断するような形で大きなビルがつくられている。全く連続性を感じず、大きなビルに挟まれて駅がかわいそうな感じである。あのような形は問題だと思う。当時は高く土地を売らなければならなかったという状況があるのは理解するが、今だと依拠すべきはそういう道・線路だろうということが理解できることにある。新橋で実現できなかったことがここで実現できると良い。変な形で建物を建てると汐留の二の舞になる。空間的なそして物語のスタートに築堤があったということが今の開発に至らしているのだから、しっかりと尊重してもらいたい。その尊重がどういうデザインなら良いのか、デザイナーとしっかり検討してもらいたい。道・線路をつくれば良いというだけが答えではない。是非工夫を凝らしてチャレンジしてもらいたい。

- [副座長] まちづくりの時間軸をどう考えているか、特に5・6街区について聞きたい。
- [JR] 5・6街区は先行する品川駅部の工事、環状4号線の工事、京急線の改良工事等の工事ヤードとして使っている。現時点では2027年度に京急線改良工事の本線への切替えが終わる予定なので、その後、5・6街区のビルを建てていくという考え方になる。1～4街区だけではなく、品川駅とつなげ、国際イノベーション拠点形成になるべく早くチャレンジをしていきたいと考えている。
- [副座長] コンセプトには大賛成である。教育・学術・文化・エネルギーなど、重要な機能をここに集積したいという意図だと思っている。是非そういうコンセプトでやってもらいたいと思うし、そうならなければいけないと思う。国家戦略特区であり、現在の日本が抱える課題を解決する。単にJR東日本のプロジェクトというだけではなく、日本にとってこの地区の開発が非常に大きな公益性を持っている。5・6街区も含めて議論するにあたって、単なるオフィスビルを作るというものでは納得できない。文化財の保護も公益目的で考えるべきであり、都市の開発も一企業の利益というよりは、社会の利益をどう考えるかという観点で考えざるを得ないのかと考える。80mと40mの合計120mの現地保存をしたということだが、それにかかるコストはどのくらいか。企業としてどう考えるか。わかれば教えてもらいたい。
- [JR] 一部公表も行っているが、第7橋梁部を現地に残すにあたり、3街区棟の設計をやり直し、海側に建物を動かす変更等を行った。それらに伴い、約500億円事業費が増加した。事業者として約500億円のインパクトは大きいが、この場合は我々鉄道事業の先人が150年前に作った高輪築堤跡の意義を理解し、関係の行政の皆さまから一部補助金を頂いたり、計画変更手続きも円滑に進めて頂いたり、様々な理解と支援を頂いて決断をして進めてきた。まさにまちづくりと文化財保護の両立を進めてきたと思っている。5・6街区に関し、副座長から「都市の開発も一企業の利益というよりは、社会の利益をどう考えるかという観点を」とご意見をいただいたが、公益的なまちづくりと民間企業として広い意味で事業性がとれること、文化財あるいは高輪築堤に関してしっかり理解をし、両立させていくこと。この両立により、エリアの価値を更に高めていきたいので引き続きご指導を頂きたい。
- [座長] 資料4に「150年前の鉄道開業というイノベーションにより、日本の近代化・高度経済成長の礎となった品川」とあるが、「高度経済成長」は必要なく、「日本の近代化」だけで良い。これをしっかりと強調してまちづくりを進めていってほしい。また「これからの日本の成長を牽引する」とあるが、産官学で、官の協力を得ないといけない。港区だけではなく東京都、日本政府に応援や協力をしっかり行ってもらいたい。
- [座長] 「TAKANAWA GATEWAY CITY」と「国際交流拠点・品川」が同じ場所を指すのか、使い分けをしているのか、混乱するので、資料に使われている用語を整理してほしい。話を聞いていると品川はまちづくり全

体で、そのうちの細長い部分が「TAKANAWA GATEWAY CITY」と認識できるが、プレスリリースを見ると、「TAKANAWA GATEWAY CITY」のみのことしか書いておらず、全体のことを触れられていない。「TAKANAWA GATEWAY CITY」の範囲がどこまでなのか、「国際交流拠点・品川」がどこまでを指しているのか、明確にしてもらいたい。

[JR] 次回会議では保存活用計画の範囲と共に、再度エリアについて説明したい。「国際交流拠点・品川」と呼ぶときは広い概念であり、JR 東日本の事業のみではない。周辺の様々なプロジェクトを含めたものである。参考資料 1 の 2 ページ目に赤く囲う範囲を広い意味での「国際交流拠点・品川」、その中で緑色に塗る範囲を「TAKANAWA GATEWAY CITY」と呼ぶ。「国際交流拠点・品川」を作るいくつかのプロジェクトの中の一つを「TAKANAWA GATEWAY CITY」と呼んでいる。次回整理して説明する。

[座長] 国際交流拠点・品川は、参考資料 1 の 2 頁目にある図の赤い範囲という理解で良いのか。

[JR] 田町・品川地区の都市再生緊急整備地域の範囲となる。

[座長] 「国際交流拠点・品川」という範囲が少し漠然としていても良いと思うが、「TAKANAWA GATEWAY CITY」と「国際交流拠点・品川」がしっかりと識別できるように用語を使っていてもらいたい。

[座長] 他になれば次の議題に移る。

6 その他

[座長] 次回、何を議論するか説明してもらいたい。

[JR] 複数の有識者から、5・6 街区のより具体的な資料が見たいという意見を頂いた。社内調整のうえ、さらに詳しい内容を提示して、今後の進め方について議論頂けるようにしたい。また、2025 年 3 月には 4 街区などがオープンする。工事進捗を見て、現場の見学を行い、ご意見をいただくことも検討したい。

[座長] 今後、年内に何回この会議を開催する見込みであるか。

[JR] 次回 6 月以降、年内に 2～3 回をお願いしたいと思っており、その間に現場見学も検討したい。概ね 2～3 カ月に 1 回を予定している。

[座長] 現場見学は 6 月の会議後に行うのか。

[JR] 現場と調整して連絡する。

[座長] 他になれば閉会とする。

7 閉会

[事務局 JR] 頂いた意見は今後の検討に活かしていく。次回の第 11 回は 6 月 10 日を予定し、詳細は後日連絡する。

[事務局 JR] 本日は終了とする。本日はありがとうございました。

以 上